

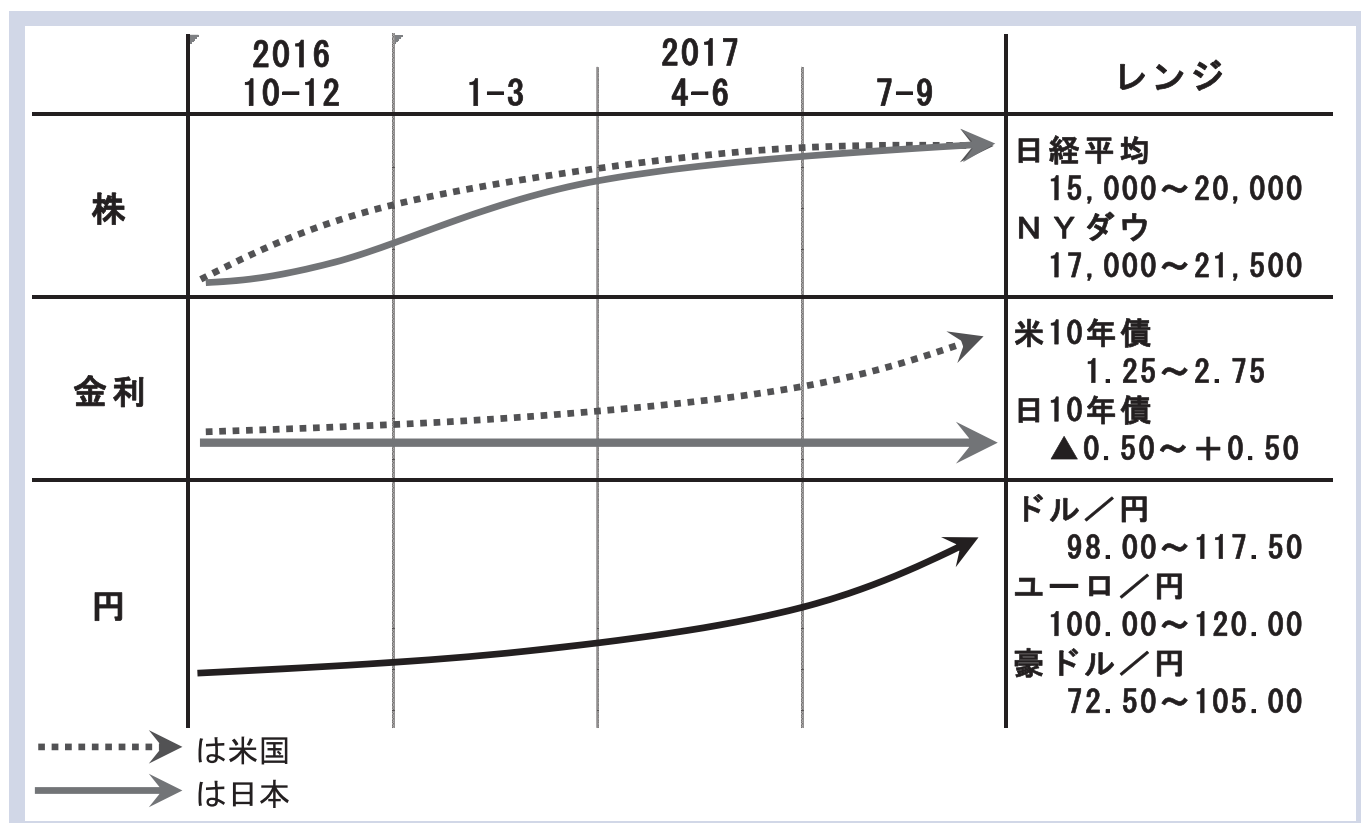
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(10月6日時点)

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	景気は足元で踊り場状態にあるが、年内は停滞感が残るだろう。海外経済の回復ペースが緩やかなものにとどまることから輸出が伸び悩むことに加え、円高による企業収益下押しや先行き不透明感の強まりから設備投資も抑制姿勢が続くとみられる。景気持ち直しは、経済対策効果が発現する17年以降となる。
② 米国	米国経済は、ドル高、世界経済減速等の影響を受けるものの、雇用・所得の増加、資産残高の増加、借り入れ環境の改善等を背景とした個人消費の拡大や住宅市場の回復の持続によって、景気拡大が継続する公算が大きい。原油価格の上昇による鉱業部門での投資の落ち込みの緩和等も成長を支えると予想される。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、①一連の金融緩和の効果浸透、②雇用・所得環境の持ち直し、③財政緊縮ペースの緩和を背景に、緩やかな成長ペースを維持する公算が大きい。ただし、国民投票後のポンド安進行と英国景気減速の余波を受け、輸出の下押しが徐々に強まることが予想される。この間、原油安によるエネルギー価格の下押し圧力が緩和するものの、物価の上昇圧力は引き続き緩慢な中、低インフレ基調が続く可能性が高い。
④ アジア・新興国	アジア経済・新興国では、中国景気に底打ちの兆候が出ているが、依然として不透明な状況は変わりがない。他方、国際金融市場が落ち着きを取り戻すなか、利回りを求める資金流入が新興国景気を押し上げる動きもある。先行きも外部環境に揺さぶられやすい展開が続くと予想されるなか、全般的には不安定な状況が続くと見込まれる。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。